登り棒の訓練－下益城郡城南町豊田小学校にて－

＝ グラビア特集 ＝

若い芽よ　すこやかに

別の措置、②魅力ある農業教育を推進するための施設設備の近代化、③教育内容の改善、④農林行政との緊密な連けいをはかるとともに、⑤自営者養成学科の整備充実を行なう。⑥さらに、自営者の質的向上をはかるため、専攻科の設置を考慮する。

工業教育

工業課程の定員は、三五年度において九百名に過ぎなかったが、その後の新増設によって二千二百名に増加し、県産業の発展に備えた。

しかし、現在は県外就職が卒業者の八〇％を占めており、新産業都市の建設ともにらみ合わせて、化学工業、鉄鉱業、機械製造業などの要員を養成し、今後これを県内にとどめていく必要がある。そのため、①今後本県産業の工業化に即応して、工業課程の学級増を検討する。②工業部門の専門化に応じて一部学科の再編成を行なう。すなわち、電子、金属工業、化学工学、衛生工学に関する学科の設置を考慮する。③その他施設、設備を充実するとともに、④職員の資質向上のための現職教育を強化する。

（二十六頁へつづく）

<表13>　高校の学科別構成

年次	普通科		職業科		左の内訳									
					農業		工業		商業		水産		家庭	
	学級数	構成比	学級数	構成比	学級数	比	学級数	比	学級数	比	学数級	比	学級数	比
昭35	158	62.9	93	37.1	45	18.0	18	7.2	23	9.1	2	0.8	5	2.0
39	204	56.2	159	43.8	58	16.0	44	12.1	40	11.0	3	0.8	14	3.9

注）公立学校の全日制、定時制の合計である

<表14>　職業高校の地域別配置状況

区分	全県	新産地域	振興地域	開発地域		
				阿蘇	球磨	天草
総数	32(135)	13(68)	8(27)	3(10)	3(13)	5(17)
農業	12(54)	4(17)	3(13)	2 (9)	1 (6)	2 (9)
工業	8(41)	4(24)	2 (8)	—	1 (5)	1 (4)
商業	11(37)	5(27)	3(16)	1 (1)	1 (2)	1 (1)
水産	1 (3)	—	—	—	—	1 (3)

注）1．昭39.4.1現在の公立学校（全日制）のみ
　　2．（　）内は、学級数を示す

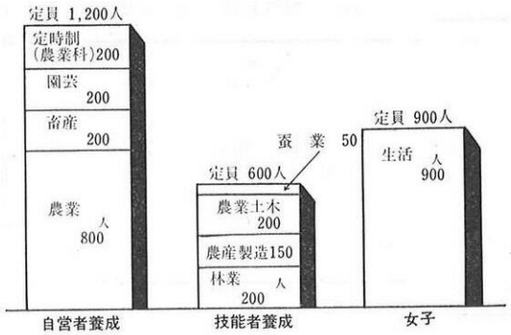
協業化と人づくり

山下信年
（天草郡登立漁協青壮年部長）

漁村の人つくり。それには、まず若年層にも魅力のある漁村の建設が前提だ。漁獲努力の割には少ない水揚げ、低い所得、人手不足、それに封建的な個人経営がもたらす漁場争いなど、漁村にひそむ問題は多い。

これはまた、私達青壮年が、自ら打開しなければならない問題でもある。

私は、その一つとして業態別の協業化を提案したい。私たちの登立漁協でも繰網と囲刺網漁業の協業化を実施し、これが人間関係の融和に大いに役立っているからである。この協業は、関係者一〇人で三七年五月に発足した。その効果は、操業秘密主義がなくなり、能率的な漁業ができ、水揚げも増えた。年間一人当りの配当が、それまでより約二〇万円の増加をみている。収入の増大は、生活に計画性をもたらした。それまでの漁場での漁群に伴う投網争いなどの個人的な不和がなくなったことも大きな効果である。

研修会も、盛んに行なわれている。漁民の目をひらくという意味で、効果的なことである。更に望みたいのは、網漁業、一本釣漁業、のべ縄漁業といった業態別の研修会が、より多く催されることである。

農業高校の現況（昭39）